



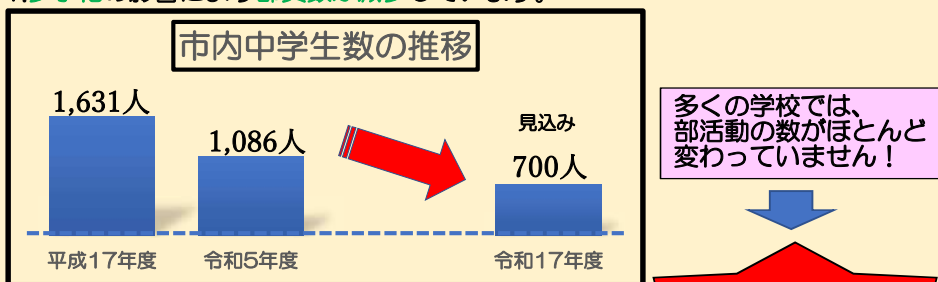
中学校の部活動が大きく変わります！

～現在進めている中学校部活動改革の経緯をお伝えします～

＜中学校部活動の課題と対策＞

(1) 現状と課題

1. 少子化の影響により部員数が減少しています。



令和17年度には、平成17年度より約55%以上の生徒数が減少
令和5年度より約35%以上の生徒数が減少

充実した部活動が成立しにくい

2. 指導経験のない教員が多く見られます。

顧問を担う種目を経験したことのある教員の割合は、約30%

3. 部活動が教師の長時間勤務による負担となっています。

平日勤務時間を過ぎての活動や休日の活動は長時間勤務の要因

4. 部活動に配置している地域指導者は特定の方に頼らざるを得なくなっています。

(2) 対策の方向

「南砺市立中学校部活動に関する提言書」(令和4年3月提出)

生徒にとって望ましい持続可能な部活動のあり方について検討を進めるために設置された「南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会」では、4つの提言を提出しました。市では、この提言に従って、改革を進めています。

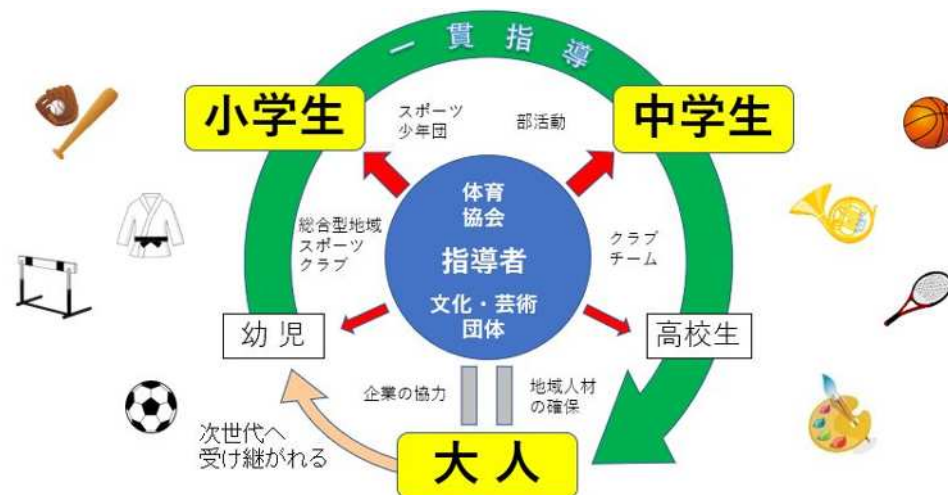
- 部活動の拠点校化
- 部活動の地域移行の推進
- 特認校制度の導入
- 国や県の動向注視

＜南砺市の部活動改革とは＞

南砺市の部活動改革は、中学校だけの問題だけとは捉えず、市の生涯スポーツ、文化・芸術活動が、持続可能で豊かにするための基盤づくりを目指します。

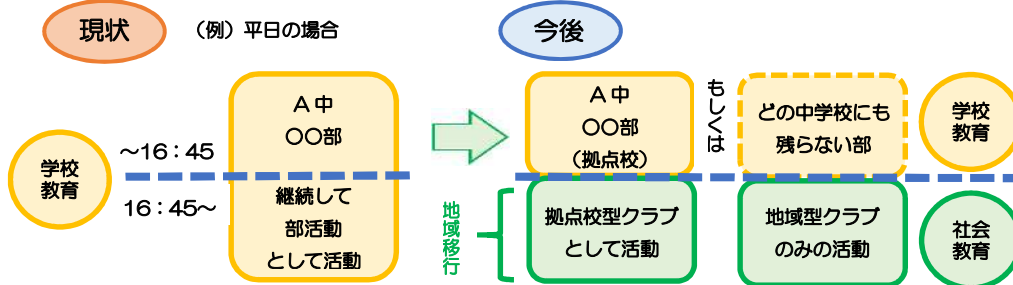
※ 国は、教職員の働き方改革を目的に、休日の部活動指導の地域移行を進めています。しかし、南砺市は地域のスポーツ、文化・芸術団体と協力し、平日の小学校段階も含めた持続可能な指導体制の確立を目指しています。

＜南砺市が進めるスポーツ、文化・芸術の持続可能な環境づくり＞



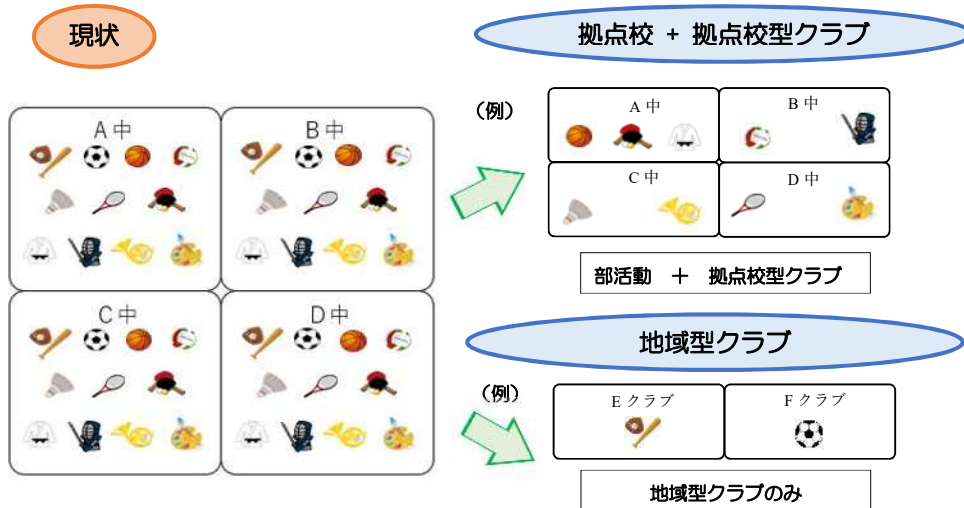
<具体的な対応>

(1) 社会教育としての部活動の地域移行を全国的な取組として進めています



16:45以降の平日2日間の部活動と休日1日の部活動を、地域の競技団体への指導に移行します。地域移行された活動は、学校管理下の部活動ではなく、社会教育となるため、どの中学校からも参加できます。

(2) 部活動の適正配置を南砺市独自の取組として進めています



市内中学校にある全ての部活動種目を、市内のどこかに残せるよう、教育委員会と体育協会、競技協会、市PTA連絡協議会、校長会等と協議し、部活動数を絞りながら拠点校として、バランスよく配置します。

- ※ 拠点校として残らない種目は、地域移行の地域型クラブとして残ります。
- ※ 通学区域内の学校で学ぶことを基本としながら、特認校制度を活用し、拠点校に就学することができます。

<部活動の地域移行と適正配置の

メリット・デメリット>

(1) 生徒・保護者の立場から見ると (地) : 地域移行 (適) : 適正配置

① メリット…充実した活動ができる

- 1部活動当たりの生徒数の確保 (適)
- 学校管理下での活動を担保 (適)
- 市全体の指導者からの組織的・継続的な指導 (地) (適)

② デメリット…中学校の部活動としての選択肢は減る

→ 今ある種目を市のどこかに残し、誰一人取り残さない
特認校就学もしくはクラブへの加入により多様性を担保する

→ …保護者の送迎の負担がある

→ 通学距離が伸びても、公共交通機関の使用分は市が全額負担

(2) 指導者の立場から見ると

① メリット…旧町村ごとに点在する指導者の協力・連携・分担＝市の財産

- より質の高い小中一貫指導体制の構築 (地) (適)
- 多様なスポーツ、文化・芸術の指導者育成 (地) (適)

② デメリット…地域内での指導場所が無くなる

→ 自分の校区に部が無くても、市内全域のより多くの生徒に対し、指導の場が保障できる

(3) 教員の立場から見ると

① メリット…教員の働き方改革

- 複数顧問制による負担の分散 (適)
- 不慣れな技術指導から生徒指導へ重点 (地)
- 部活動の負担が軽減される (適)

② デメリット…移行期に募集停止部活動への対応などが必要

→ …部活動指導を熱心に取り組んでいる教員のモチベーション低下
→ 地域指導者の立場で、これまで通り指導に携わっていただける

次回、Part.2では地域移行の具体的な対応や南砺市の部活動改革のQ&A等を予定しています。